

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

| | |
|----|-------------------|
| 所在 | 東京都西東京市向台町 5-5-46 |
| 園名 | アスクたなし保育園 |

1. 活動のテーマ

<テーマ>

・動物を身体で表現する

<テーマの設定理由>

子ども達は身体を動かすことが好きでマットやクライミングを使って様々な動きを楽しむ。

2. 活動スケジュール

上半期→様々な動物を知りその動物の真似をしてみたり鳴き声を知る
下半期→用具を使って動物になりきったりゲーム遊びに繋げていった。
キャストを招き、専門的なアドバイスをもらい活動に繋げている。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・子どもたちから出た動物を題材にホールで友だちと一緒に身体を動かせる環境を作る。
- ・話し合いでは子どもたちだけでは分からないことは保育者も入っていく。
- ・マット・鉄棒・短縄・長縄・クライミング・画用紙・ペン・イラスト・写真・iPad

備品購入→

4. 探究活動の実践

【3歳児実施分】

問いを考える：①動物はどんな種類がいるか？その動物の鳴き声は？と知っている動物をイメージし鳴き声も一緒に考え実際に身体を動かして動物の真似をしながらやってみようと問いかけ進めた。

②子どもたちから出てきていない動物の写真を見せ動きや鳴き声を考えるよう進めた。

③ボール・縄跳び・鉄棒を使ってどんな動物が表現できるか問いかけた。

④自分で考えたり選んだりした道具で動物を一人ずつ発表していった。クイズ形式にして全体で楽しみつつ参加できるようにしていった。

探究活動の様子：

- ・元々知っている動物でも鳴き声は知らなかったりどんな動きで歩くのか知らなかったりすると、皆で意見を出し合い「こうじゃない？」「こうかも？」と考える様子が見られた。
- ・一人ずつ発表する場面では毎回クイズ形式で見ている人が答えるというのをやっていた為、飽きることなく最後まで全体で参加し取り組むことができた。
- ・道具を使う際の活動では、同じ装具、同じ動物でも道具を違う使い方をして表現するなどオリジナリティあふれるものが多くあった。

ふりかえり(保育士の気付き)：

- ・動物という子どもたちが興味を持ちやすいテーマで進めていくことにより、全体的に楽しく参加することができて良かった。保育者や講師も最初は助言することもあったがすぐに自分たちでイメージをつけて表現しようとする様子が見られるようになった。新しい動物を知ったり知っている動物の鳴き声を知ったり、知って実践していくことを積極的に行なっていた。

【4歳児実施分】

問いを考える：・子どもたちが知っている動物を問いかけ、鳴き声や動き方をイメージしながら身体を動かし表現していけるようにその都度問いかけながら活動を進めるようにし

た。

- ・その中で名前は知っているが鳴き声が分からないものは自分たちで調べることにしどのように調べるかも問いかけた。

- ・調べて分かった動物の特徴を活かしたゲーム遊びを考えてみることを提案しどの動物同士だとゲームが成立するかなど問いかけ行なうようにした。

また、自分たちで考えアレンジされた動物の動きを取り入れたゲームも考え行えるようにした。

- ・遊具や用具を使って動物の動きを表現する活動を行ない、グループごとに考え発表した。イメージが広がるよう動物園や水族館での生き物の姿を問いかけ自分たちで気づき、友だちと協力して行えるようにした。

探究活動の様子：・自分たちが知ってる動物を出し合い、動きや鳴き声についてもそれぞれが意見を出していた。グループごとに話し合っていたこともあり思っていることを1人1人が話す様子が見られた。

- ・鳴き声が分からない動物を自分たちで調べることになり、図鑑・動画・両親に聞いてみるといった案を自分たちで考え出し調べ発表を行なった。自分たちで調べたことを自慢気に発表したり担当していない動物も調べるなど積極的に取り組んでいた。

- ・動物の特徴を活かしたゲーム遊びでは様々な動物の組み合わせで鬼ごっこを行なった。その中でゆっくり動く動物と速く動く動物の組み合わせではゲームが成立しないことに気づき、似た動きの動物で行なうと楽しめるという発見していた。

- ・ボール・縄・マット・クライミングなどを使って表現できそうな動物を考え、グループごとに発表を行なった。これまでの話し合いを通して自信がついてきたようで紙とペンを渡すと発表する動物や用具を絵に描き進んで発表する様子があった。

ふりかえり(保育士の気付き)：・動物というテーマが分かりやすく子どもたちもイメージしながら活動しやすかったと思うので良かった。

初めは話し合いで思いを言い出せない子もいたが少人数のグループで行なったり回を重ねるごとに自由に発言する姿も見られた。子どもたちの考えを大切にしつつ活動に落とし込んでいくことで興味を持って活動に参加したり積極的に取り組んだりする姿を引き出せたように思う。

今回のすくわくを通し、やってみたいに耳を傾けていくことが大切だと改めて感じ実践することができたので良かった。

【5歳児実施分】

問いを考える：・どんな動物がいるかを子どもたちに問いかけ「きりん」「あざらし」等様々な動物の名前が挙がった。その後その動物の歩き方や歩くスピードについて考えていき意見を出し合いながら実際に動いてみて表現遊びを楽しんでいた。「この動物はジャンプが上手」「この動物は足が速いよね」と自分の知っていることを他児に伝える姿があった。動物の動きを考えていく中でこの動きはこのゲーム遊びに取り入れられそうと普段の遊びに動物の動きを入れようとする様子があった。

探究活動の様子：色々な動物になりきって遊ぶ中で自分たちが普段遊んでいる遊びに動物歩行を取り入れようとする様子が見られ、「さるは投げるのが上手だから投げる人はさるにしよう」「逃げる時にライオン歩きをするとぶつかって危ないよね」と動物の特徴をしっかり捉えて決めていく姿があった。

またルールを決める場面では少人数で考えていくことで自分の意見を言いづらい子も意見を言いやすい環境を作ることができていた。ゲーム遊びを作る際「ここはどうする？」「この場面はどうする？」と保育者が質問していくことでスムーズに決めていくことができ、最終的には自分たちでルールを考え発表することが出来ていた。

ふりかえり(保育士の気付き)：初めは自分から意見を言うことが難しかった子も少人数での話し合いや講師が動物カードを用いて分かりやすく説明してくれたおかげで自ら話し合いに参加する事ができていた。動物歩行や動きを考える際、実際に講師が動きを見せたり子どもたちが動いてみることで理解を深めることができた。

5. 活動の様子が分かる写真

3歳児

活動の様子が分かる写真
(HPなどで公開する可能性があります)



4 歳児



2枚以上を貼付してください。
(すので、公開可能なものを使用ください。)



5歳児

活動の様子が分かる写真 2枚以上を貼付してください。

(HPなどで公開する可能性がありますので、公開可能なものを使用ください。)



とうきょう すくわくプログラム活動報告書

| | |
|----|-------------------|
| 所在 | 東京都西東京市向台町 5-5-46 |
| 園名 | アスクたなし保育園 |

1. 活動のテーマ

<テーマ>

音の高さが変わるしくみ

<テーマの設定理由>

色々な音に関して、どんな音どんな音の高さなどに興味を持てるように自分たちの周りにあるもので探してみたりする。

2. 活動スケジュール

上半期→音の違いを知り手作り楽器を作って楽しんだ
下半期→手作り楽器を発表会に向けて演奏したり、ポディーサインを練習した。
キャストを招き、専門的なアドバイスをもらい活動に繋げている。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・自分たちのクラス・ホール様々な部屋や園庭などに行って音を楽しむ。

・子どもから出た音に関することをメモする。音に関して楽しんでいる様子を写真や動画に撮る。

・絵本・絵カード・楽器・手作り楽器・イラスト・指文字表・ラジカセ・CD

備品購入→音の高さが変わるしくみを確認する為にピアノ23個、ハンドウッドブロック11個購入しました。

4. 探究活動の実践

【3歳児実施分】

問いを考える：①音の種類とは何だろう？と問いを投げ、絵本や絵カードを用いてオノマトペや保育室内で見つけた音について考えていった。

②最初に使った紙コップをプラスチックコップに変えるとどんな音になるか試していった。そこで音の違いに気づいた。

③ペットボトルの大小・水の量を変えたものを用意し高さの違いを実際に音を鳴らして聞き比べた。

④作り方によって音の大小高低が変化することに気づき楽器の製作を通して実際に音の違いに気づけるようにしていった。1人1つずつマラカス・ギロ・太鼓など楽器を製作していき他児との音の違いを感じたり演奏する楽しさを感じていった。

探究活動の様子：・音の高低音の違いを「大きい音・小さい音」と表現していたが子どもたち自身で気づく様子があった。楽器の製作を通して同じ音ではなくそれぞれ違う音が鳴るのだと知り他児の楽器と音を聞き比べる様子も見られた。

・楽器を自分で手作りすることで製作の楽しさ、作ったもので音を鳴らして遊ぶ楽しさを感じており、意欲的に取り組んでいた。子どもに「これママに見せる？」と言われ発表会でも取り入れた。手作りマラカスを使い曲をピアノに合わせて演奏し保護者にも見てもらうことができた。

ふりかえり(保育士の気付き)：どんな音が鳴るのか？という問いから始めたが音の高さに子どもたち自身で気づくことができたのが驚いた。普段から製作にも興味を持って取り組んでいる様子が見られたため楽器を製作する活動を積極的に行なっていった。子どもの興味のあることに繋げていけたことがよかったと思う。また、作った楽器を持ち帰るだけでなく、発表会という保護者のいる場で見せることができたことも良い機会になったように思う。子どもの「保護者に見せたい」という気持ちを汲み取ることができた。

【4 歳児実施分】

問いを考える：・「がちゃがちゃ どんどん」の絵本を通して、音への興味を持ち音探しを行なった。

・中に入れる物を変えるだけでなく入れ物を変えるとどうなるか考え様々なもので音を鳴らして遊ぶことにした。

・缶ボトルの中に水を入れ叩くとどんな音がするのか問いかけり水の量を変えるとどんな変化があるのか問いかけ音遊びをした。缶ボトルで音階を作りグループごとに演奏して遊ぶ試みもした。

・音階への興味が見られたことからドレミファ表を見て歌を歌ったり、ボディーサインを知り、身体で音を表現することについて考えた。自分たちの考えたポーズでボディーサインを作り歌いながら表現することを楽しんだ。曲はどんなものかいいのかなども問いかけ話し合いながら取り組んだ。

・身体を使って表現する方法にの他に何があるか問いかけると「指」に着目しフィンガーサインと手話を知ると手話に興味を示していた。

探究活動の様子：・絵本の中で感じた音を部屋の中のを紙コップの中へ入れ探す活動を行ない大きさを変えたり、入れる数を変えるなど入れる物で音に変化することに気づき姿があった。

・容器が紙製やプラスチック製、アルミ製で音が変わること気づき、音の高さや音の広がり方などにも興味を持って試す姿が見られていた。

・缶ボトルに水を入れて叩いて鳴らしてみるとそれぞれが入れた量で音に変化すること気づき水が多いと低く、水が少ないと高くなることに気づいていた。

また、歌に合わせて叩いて遊ぶ姿があり、演奏して遊ぶことに繋がった。

・音階への興味が高まる中、身体で音を表現することを行ない、ボディーサインを知ると曲の演奏をしたいと言って子どもたちから提案があり「かえるのうた」「きらきらぼし」「メリーさんのひつじ」など缶ボトルの演奏でも行なった歌で表現して楽しんでいた。

また、ここで身体から指に興味を広がり手話に関心が高まっていた。動物手話や指文字に自らチャレンジするなど積極的な様子が見られた。

ふりかえり(保育士の気付き)：・絵本の中に音を探すということで親しみやすく紙コップ

の中に様々な物を入れて音探しを楽しめるようにした。身近な物から音が生まれることに気づき感激する姿があり、日常の中から様々な遊びへ展開していく面白さを味わえるようにした。缶ボトルでは実際に水の量を変えて入れていく中で音の変化を体験し目を輝かせる様子があったり、演奏へと自然な流れで進み自分たちで考えたことが形になっていく経験が行なえたと思う。

また、ボディサインや手話など子どもたちに分かりやすく楽しく知ってもらえるようにイラストやドレミ表を書いたり手話クイズなどを行ない楽しく活動に参加していけるような工夫ができた。

【5 歳児実施分】

問いを考える：マラカスや絵本、楽器、様々な教材を使って音の違いについて考えていった。様々な楽器に触れていくにつれ「楽器を作りたい」という意見が子どもたちから出てきた。廃材を使って楽器作りに挑戦してみると「○○ちゃんと一緒だ」「○○くんのはどうやって鳴らすの？」とさらに楽器についての興味が深まった。そこで講師から楽器の分類分けについて教えてもらいさらに楽器について理解を深めた。その後自分たちで作った楽器で合奏を試みたいという意見から合奏について考えていき最終的には本物の楽器を使って合奏を楽しんだ。

探究活動の様子：初めは音について考えていき、「この音はなんだろう？」「今どこで音がした？」とゲーム感覚で楽しんでいった。様々な楽器に触れることで自分たちも作りたいという意見が出たことで割り箸や紙コップなどを使って楽器作りを行なった。

輪ゴムを割り箸に引っかけてギターのようにしたり、紙コップにおはじきを入れてマラカスにしたり友だち同士で缶替えを伝え合いながら製作する姿が見られた。

合奏では同じ種類の楽器の仲間が集まってリズムを考えたりしながら練習をしていった。最終的にはピアノカ・太鼓・鈴・タンバリンを使って合奏の発表を行ない緊張しながらも楽しんでいった。

ふりかえり(保育士の気付き)：音について考えていく所から子どもたちのやってみたくてという気持ちに沿って活動していき楽器作りや合奏に繋がっていったことが良かった。

子どもたちから出た意見で進めていくことで楽しんで活動に取り組むことができている積極的に意見を出し合うようすがあった。

今後も子どもたちのやりたい・やってみたくてという気持ちやこれなんだろう？という興味

を見逃さずに保育に取り入れていこうと思う。

5. 活動の様子が分かる写真

3 歳児

活動の様子が分かる写真 2 枚以上を貼付してください。



4 歳児

活動の様子が分かる写真 2 枚以上を貼付してください。

(HP などで公開する可能性がありますので、公開可能なものを使用してください。)



5歳児



女以上を貼付してください。
(で、公開可能なものを使用ください。)

